

## 名古屋港の港湾機能の強化に関する要望

日頃は、名古屋港の発展のために、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて名古屋港は、平成18年の総取扱貨物量で、わが国港湾で初めて2億トンを突破し5年連続で全国1位の座を確保するとともに、コンテナ取扱個数においては外内貿合わせて275万個（前年比10.5%増）と、過去最高を記録致しました。

また、貿易額も1兆8,677億円と6年連続わが国港湾第1位であり、名古屋港は当地域の海の玄関として、着実な成長と発展を続けております。

一方、社会経済活動のグローバル化の進展や港湾間競争の激化などによって、わが国港湾を取り巻く環境は著しく変化しております。

とりわけアジアの主要港では、国を挙げて施設の整備とサービス水準の向上を図っており、相対的にわが国港湾の地位低下が危惧されております。

名古屋港は、当地域経済のみならず、日本経済のモノづくり産業を物流面で支える産業ハブ港として、今後さらに国際競争力を備えた利用しやすい港として整備していくことが大変重要であり、港湾機能の拡充・強化が必要不可欠であります。

つきましては、平成20年度の予算編成に当たりまして、下記事項につき、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

- 1 . 国際競争力の強化に向けたコンテナターミナルの整備を推進すること

### 飛島ふ頭南側コンテナターミナル

飛島ふ頭南側における次世代高規格コンテナターミナル第2バースの平成20年早期完成とともに、更なる機能拡充を図ること。

また、航行船舶の運行に必要な航路の整備を推進すること。

### 鍋田ふ頭コンテナターミナル

急増するアジア・中国貨物に対応するため、鍋田ふ頭コンテナターミナルの更なる機能拡充を図ること。

- 2 . 鍋田ふ頭進入道路の整備を図ること
- 3 . 堀川口水門・排水機場の改修を図ること
- 4 . 環境と共生する港湾の整備促進を図ること
- 5 . 既存ストックの有効活用を図るため、老朽化が進む岸壁、臨港交通施設の改良・維持を促進すること
- 6 . 福利厚生施設整備への補助制度を創設すること

平成19年7月

名古屋商工会議所  
会頭 箕浦 宗吉

名古屋港振興協会  
会長 高橋 治朗

名古屋港利用促進協議会  
会長 高橋 治朗

名古屋海運協会  
会長 萩野 聖

名古屋港運協会  
会長 伊藤 正

東海倉庫協会  
会長 木全 英一